

機関番号：12601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21790622

研究課題名（和文） 介護ストレス症候群のバイオマーカーの確立

研究課題名（英文） Aged caregiver's stress for demented patients

研究代表者

亀山 祐美 (KAMEYAMA YUMI)

東京大学・保健・健康推進本部・助教

研究者番号：60505882

研究成果の概要（和文）：

認知症の介護疲れによる心身のストレスから、介護者のうつや虐待の増加が社会で問題になっている。認知症専門外来に通院中で、老老介護 34 夫妻の介護者のストレス状態の把握を目的として心理検査とストレスマーカーの測定を行った。

介護者は高頻度でうつ、不安を有していた。GDS15（うつ状態）、POMS の抑鬱 ($p=0.05$)、STAI の特性不安 ($p=0.02$) は介護者（妻）の方が有意に悪い結果であった。

配偶者の認知症進行に伴い、介護者（夫）は、心理的 QOL が低く、特性不安と GDS が高くなった。一方、介護者（妻）は、POMS の怒り-敵意と特性不安が軽快した。

介護者のストレス評価も認知症診療で取り入れる必要がある。また、介護ストレスには性差があり、それに基づく対応が重要と考えた。

研究成果の概要（英文）：

Increasing numbers of family caregivers are confronted with depression and abuse because of stress for care. It is important to evaluate the caregiver's stress with mental examination and some biomarkers.

34 families were analyzed with mental health, such as WHO Quality of Life 26 (QOL26), State-Trait Anxiety Inventory (STAI), Profile of Mood States (POMS), Geriatric Depression Scale (GDS) and Caregiver's burden measured with Zarit Burden Interview (J-ZBI).

Female caregivers showed 6.4 ± 3.8 male caregivers 4.3 ± 3.0 in GDS15, Female caregiver's POMS-Depression score ($p=0.05$) and STAI-Trait Anxiety score ($p=0.02$) are significantly worse.

According to the care needing levels go up, male caregivers feel fatigue and depression. Female caregivers don't have significantly change with her husband level of needing care.

Aged caregivers showed high frequently depression and anxiety. It is important to care not only demented patients but also caregivers, with mental examination.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：内科系臨床医学・内科学一般（含心身医学）

キーワード：認知症、介護ストレス、介護うつ

1. 研究開始当初の背景

高齢者は人口の 20%以上を占める。高齢化に伴い、認知症患者は増加し、75 歳以上の 6 人に 1 人が認知症である。認知症介護の負担は大きく、介護者も高齢化し、老老介護、認認介護が社会的な問題になっている。介護を苦にした殺人や心中も多く(120 件/7 年間)、高齢者虐待件数は年々増加し、1 万 4889 件/年の被害報告がある。被害者は 77%が女性、80 歳以上が半数。加害者は息子 40.6%、夫 15.8%の順である。

2. 研究の目的

介護疲れによる心身のストレスから、介護者のうつや虐待の増加が生じることが考えられる。介護者のストレス状態の特徴を調査することを目的として心理検査とストレスマーカーの測定を行った。

3. 研究の方法

対象 東大老年病科物忘れ外来通院中の認知症患者とその同居介護配偶者 (65 歳以上) **認知症患者用**

●問診 (既往症、疾患、重症度、症状、内服薬、家族構成、学歴、職歴、要介護度)

●認知症の病型診断

●心理検査: MMSE (Mini-Mental State Examination)、GDS (Geriatric Depression Scale)

●認知症生活自立度 (I ほぼ自立、II 日常に支障きたす、III さらに進行・問題行動あり、IV 常に介護が必要、V 著しい精神症状)

●問題行動評価: NPI (Neuropsychiatric Inventory)

●生活機能: Barthel index、IADL

介護者用

●問診 (既往症、疾患、症状、内服薬、家族構成、学歴、職歴、要介護度)

●うつ評価: GDS (Geriatric Depression Scale)

●心理テスト (不安評価; 新版 STAI、気分評価; POMS、QOL 評価; WHO-QOL-26)

●介護負担感 (Zarit 介護負担尺度)

●唾液採取 (自宅 11 時・病院午前中) アミラーゼ濃度 (モニター)

4. 研究成果

対象: 34 組の認知症患者と同居介護配偶者 (65 歳以上)

●男性患者平均: 年齢 79±7 歳、
MMSE 16.8±6.4、Bathel Index 71±19
その妻 18 名 平均年齢 73±8 歳

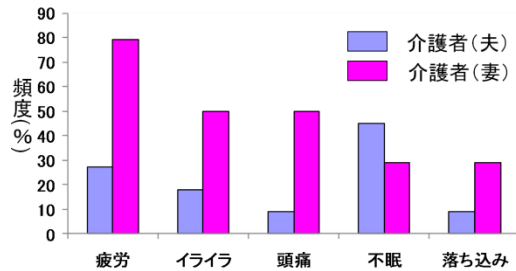
●女性患者平均: 年齢 77±4 歳、
MMSE 13.6±7.6、Bathel Index 74±27
その夫 16 名 平均年齢 77±4 歳

認知症生活自立度により、介護者の負担は

変わることが予想され、I~Vのうち、I~III群と進行したIV V群とにわけた。また、愁訴・心理検査において性差を認めたため、性別に解析を行った。

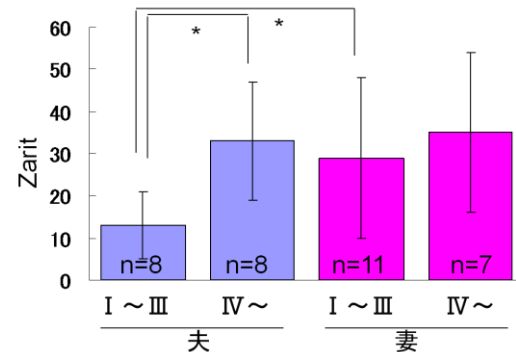
(1) 愁訴の性差

介護者 (妻)の方が、介護者 (夫)に比べ、愁訴が多い。



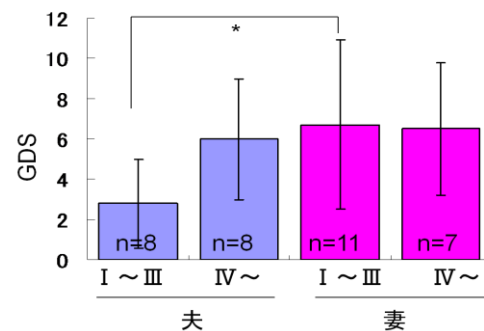
(2) 認知症日常生活自立度別の介護者 Zarit

進行したIV~の群を介護する介護者(夫)は、I~III群の介護者(夫)に比べ、介護負担感が優位に高い。介護者(妻)は認知症の初期から介護に負担に感じている。



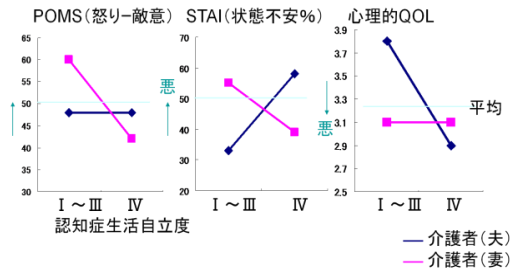
(3) 認知症日常生活自立度別の介護者 GDS15

GDS15 はうつ状態の評価をする検査である。介護者(妻)は、認知症の I~V どの段階でも、うつ傾向がみられる。介護者(夫)は、認知症が進行した群でうつ傾向がみられるようになる。



(4) 介護者心理検査の性差

介護者(妻)は、夫の認知症がⅠ～Ⅲの段階では、「怒り-敵意」と「不安」が強いが、Ⅳ以上に進行した群は、両者とも軽くなる。介護者(夫)は、妻の認知症がⅣ以上になると、「不安」が増し、心理的QOLが大きく下がる。



(5) ストレスマーカー唾液アミラーゼ値

自宅での午前 11 時の唾液と午前通院時の唾液を採取した。唾液アミラーゼは、ストレスを反映するマーカーとして数々の論文で証明されている。今回、唾液アミラーゼを測定したが、心理検査と相関していないため、今後、唾液コルチゾール、テストステロン、血中の性ホルモンなどとの関係について、さらに検討を行う必要がある。

(6) まとめ

老々介護ストレスの実態を調査した。介護者は高頻度でうつ、不安を有しており、介護者のケアも認知症診療で取り入れる必要がある。今回、唾液アミラーゼでは、十分な介護ストレスを反映させるマーカーとはいえなかったが、今後、介護サービスや介護教室などの介入をして、その前後で比較する意味はあると考え、さらに研究を進めてゆく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① Association of low testosterone with metabolic syndrome and its components in middle-aged Japanese men. Akishita M, Fukai S, Hashimoto M, Kameyama Y, Nomura K, Nakamura T, Ogawa S, Iijima K, Eto M, Ouchi Y. Hypertens Res 2010; 33: 587-591.

[学会発表] (計 12 件)

- ① 老年病科入院患者における不眠症合併頻度の性差と加齢変化. 亀山祐美, 秋下雅弘, 山口潔, 山本寛, 山口泰弘, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 大内尉義 : 第 9 回

- ② 日本抗加齢医学会 (東京, 2009 年 5 月)
- ② 老年病科の「物忘れ精査入院」における内服薬整理の取り組み. 亀山祐美, 秋下雅弘, 山口潔, 木棚究, 山本寛, 山口泰弘, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 大内尉義 : 日本老年医学会 (東京, 2009 年 6 月)
- ③ 高齢者総合的機能評価の入院時スクリーニング法の開発. 山口潔, 秋下雅弘, 木棚究, 山賀亮之介, 竹村彩, 亀山祐美, 山本寛, 山口泰弘, 飯島勝矢, 大内尉義 : 日本老年医学会 (東京, 2009 年 6 月)
- ④ 医学部生への性差医学・老年医学とその教育に関するアンケート調査. 宮尾益理子, 亀山祐美, 深井志保, 山田容子, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 秋下雅弘, 大内尉義 : 日本老年医学会 (東京, 2009 年 6 月)
- ⑤ 認知症精査入院患者の聴力・視力障害と行動心理症状 (BPSD) との関連. 亀山祐美, 秋下雅弘, 山口潔, 山本寛, 山口泰弘, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 大内尉義 : 第 28 回日本認知症学会 (仙台, 2009 年 11 月)
- ⑥ 看護師による入院患者の認知症スクリーニング法の開発. 山口潔, 秋下雅弘, 亀山祐美, 木棚究, 竹村彩, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 大内尉義 : 第 28 回日本認知症学会 (仙台, 2009 年 11 月)
- ⑦ 老年病科入院患者における老年症候群重積数からみた性差. 亀山祐美, 飯島勝矢, 秋下雅弘, 山口潔, 山本寛, 山口泰弘, 小川純人, 江頭正人, 大内尉義 : 日本性差医学・医療学会 (東京, 2010 年 2 月)
- ⑧ 医学部生への性差医学・医療教育への取り組み.-老年病科BSL中に実施している性差医学医療セミナーに関して- 宮尾益理子, 亀山祐美, 深井志保, 山田容子, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 秋下雅弘, 大内尉義 : 日本性差医学・医療学会 (東京, 2010 年 2 月)
- ⑨ 物忘れ精査入院患者における睡眠の質の検討-うつ傾向による自己評価と客観的評価の解離. 亀山祐美, 秋下雅弘, 山口潔, 山本寛, 山口泰弘, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人, 大内尉義 : 日本老年医学会 (神戸, 2010 年 6 月)
- ⑩ Association of low testosterone with metabolic syndrome and its components in middle-aged Japanese men. Umeda-Kameyama Y, Akishita M, Fukai S, Nomura K, Ogawa S, Iijima K, Eto M, Ouchi Y. : Men's Health World Congress (Nice, 2011. Nov)
- ⑪ 認知症に合併しやすい老年症候群. 亀山祐美, 秋下雅弘, 山口潔, 山本寛, 山口泰弘, 小川純人, 飯島勝矢, 江頭正人,

大内尉義：日本認知症学会(名古屋、2011年11月)

- ⑫ 老年病科患者における不眠・夜間頻尿の頻度と性差. 亀山祐美、秋下雅弘、深井志保、東浩太郎、山本寛、山口泰弘、小川純人、飯島勝矢、江頭正人、大内尉義：日本メンズヘルス医学会(東京、2011年11月)

[図書] (計4件)

- ① 在宅医療辞典 全人的医療 P191 中央法規 2009年11月(査読なし)
- ② 認知症ガイドライン2010 日本神経学会監修 医学書院2010(査読なし)
- ③ 当直医実践マニュアル 南江堂 亀岡信悟/監修、梅田悦生・滝口進ら/編修、亀山祐美・武田桜子・常深祐一郎・山口潔/編修協力者2010年6月(査読なし)
- ④ 言語聴覚士国家試験受験対策実践講座 診断と治療社 2010年度版 梅田悦生・梅田紘子・亀山(梅田)祐美 2010年10月(査読なし)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

亀山 祐美 (KAMEYAMA YUMI)
東京大学・保健・健康推進本部・助教
研究者番号：60505882

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：